

# よりよい村にしていくために

長生村立長生中学校 三年 渡邊 泉穂里

皆さん、自分のふるさとは好きですか。緑豊かで地域の人たちが暖かく優しい長生村が、私は大好きです。

長生村では、小学校に入る前から外国人の先生が英語を教えてくれたり、一人一台ずつ貸し出されているパソコンを利用した学習があったり、また、中学校の防災部への活動支援や各教室へのエアコンの設置など、私たち子どもが学びやすい環境をかなり整えてくれていると感じます。

けれども、将来的に住みたいかと聞かれるとそれはちょっと…考えてしまいます。

なぜなら、村に住んでいる多くの方は、買い物や仕事に行くために車や電車を利用していることや、私が大人になったときに働きたいと思えるような魅力のある就職先があまり無いからです。

そこで私は、村に住んでいる人たちはどのように感じているのか気になり、村のホームページにあった地方創生に係るアンケートというのを見ってみました。そこには住民が思う長生村に足りない部分がはっきりと書かれていました。その中でも私は若い人たちのアンケートに注目してみました。

長生村に住み続けたいかという質問に対し「住まないつもり」、と答えた人の中で最も多かった意見は「通勤が不便だから」70%、次に多かったのは「希望する就職先がないから」50%と意見の多くは仕事関連でした。

このようなはっきりした問題点に対して、長生村も黙って見ているだけではありません。

例えば企業誘致のために、村内で会社を新設、移転する人を支援するために、税の負担を軽くする企業立地奨励金、また、創業関連保証特例活用時の優遇措置などがとられる創業支援等事業計画があり、実際に利用して村に本社を移転した企業もあるそうです。しかし、私が読んでみる限り、小規模事業者持続化計画というものがあるものの、大きな企業でないと利用しづらいように感じました。

私は、大きな企業だけでなく、村から出て就職し経験を積んだ人が村に戻って起業したり、村に移住する人が起業したりするときにも利用できるような仕組みが充実すべきだと思います。そうすればもっと色々な働く場所ができ、そこに雇用が生まれるのではないかと考えるからです。

例えばパソコンを使い完結するベンチャー関連の仕事であれば、村外に出る必要もなかったり、都会が苦手な静かなところで働きたいという人を招き入れることも可能だと思います。また、村では高齢者の割合がとても多く、医療関係施設や仕事を増やすことで若者の雇用、そして村民からの需要も高まるのではないかと思います。

人口減少を軽減していくためには、私たちのような子供が「夢をもち、生きがいを感じ、住んで良かった」と思える長生村を作っていくことが必要です。そのために、まずは若い人たちが求めている企業誘致をして就職先の確保をすべきです。やりがいのある職場が近くにあることで、私たちの世代やその先の世代が、引っ越さなくても充実した生活ができる場所にきつとなるはずですよ。

これらの目標を実現させるためには、大人だけでなく、私たち若者も村に関心を持ち、意見を出し合っていくことが重要になるのではないかと考えます。

以上の話を聞いて皆さんは、どんな長生村だったら残っていたいと思いますか。

みんなで一緒に考えていきませんか。